



図3 周辺地質図

2 周辺の遺跡

八戸平野には旧石器時代から近世までの多くの遺跡が所在しており、縄文時代の国史跡是川遺跡や中世の南部氏居城である国史跡根城跡が著名である。今回発掘調査を行った遺跡周辺にも多くの遺跡が点在しており、新井田川左岸の河岸段丘上に立地する田向冷水遺跡は、青森県内初となる古墳時代の集落跡が発見されたほか、旧石器時代のナイフ形石器が多量に出土したことで注目を集めている。また、長久保(2)遺跡から西へ約2kmの土橋川を挟んだ丘陵地には、丹後谷地(1)遺跡など縄文時代後期を主体とする遺跡や田面木平(1)遺跡を初めとする大規模な古代の集落遺跡があり、国史跡丹後古墳群のような終末期古墳も遺されている。

今回発掘調査した3遺跡は、長久保(2)遺跡が縄文時代中期後葉、糠塚小沢遺跡が縄文時代中期末葉、中居林遺跡が後期初頭と弥生時代中期というように、各々集落の主体となる時期を異にしている。また、縄文時代早期末葉から前期初頭の落とし穴状遺構など各遺跡で発見される遺構や、縄文時代後期前葉の土器など各遺跡で少量ずつ出土する遺物がある。縄文時代早期末葉から前期初頭の落とし穴状遺構は、馬淵川を望む鶴窪遺跡において県内では初めて調査され、その後多くの遺跡で類例が知られるようになった。当該期の竪穴住居跡は近隣の渋野遺跡で調査されている。中期後葉には、新井田川右岸の松ヶ崎遺跡が大規模な集落として知られている。中期末葉から後期初頭の集落は、新井田川右岸に樅館遺跡、新田川支流の松館川左岸に黒坂遺跡があり、馬淵川右岸には当該期の土器型式であ